アーカイブズ

ARCHIVES

沖縄県公文書館だより　第 64 号　2023 年 2 月 14 日発行

米陸軍省の学生交換プログラムのもと、沖縄の女子学生 5 名がアメリカ留学へ出発
1960 年（昭和 35）8 月 3 日［260CR-04_0305-01］

米国政府は、沖縄の長期保有を決めた 1949 年（昭和 24）から米国留学制度を開始し、1970 年（昭和 45）までに総計 1,045 人を派遣しました。留学終了者のほとんどは沖縄に戻り、政治・経済・教育・文化など各分野で活躍しました。女子留学生の割合は10％ほどに留まりました。

2-3｜ 特集　所蔵資料展 女性たちの沖縄

4｜新規公開資料 神山長蔵文書 / 歴史手帖「下河辺メモ」

5｜シマめぐり沖縄「久米島町」

6｜シリーズ 記録をつくる 記録をのこす「説明責任」/ フラッシュニュース　公文書管理講座を開催！

7｜専門員リレーエッセイ「資料と人々をつなぐ」/ 歴史講座「日本復帰と沖縄」アーカイブ動画配信中

8｜お知らせ 公文書館を職員の解説つきで見学してみませんか？

女性たちの沖縄

―公文書館資料にみる女性のあゆみ

2023年1月20日（金）―7月23日（日）　沖縄県公文書館展示室　9:00―17:00　入場無料

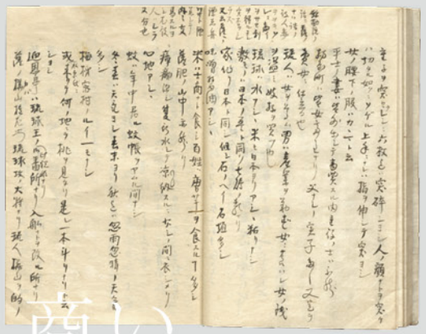
沖縄の女性たちは長い歴史のなかでさまざまな役割を担ってきました。学問を否定された前近代、「良妻賢母」として夫を支え、「家」を守り、国家のために子を産み育てることを求められた戦前、少しずつ社会進出をしていく戦後と、女性の社会的な位置づけは変化しました。女性の人権の尊重や社会的な地位向上を目指した人々の動きは、社会を変える力になり、現在へ脈々と受け継がれています。本展示では、琉球王国時代から現代にいたるまでの沖縄の女性たちの歴史を振り返ります。

1 近代沖縄と女性

琉球王国時代の女性たちの様子は、首里王府の公文書や琉球を訪れた冊封使、薩摩人の記録などからその一端がうかがえます。

1801 年（享和元）に熊本から鹿児島を旅した肥後藩士が著した紀行文の「薩遊紀行」には、鹿児島滞在の琉球人や薩摩役人から聞いた話として、那覇では「平士の妻はみな外で商売をする」と、女性が商売を担う様子が記されています。

薩遊紀行 全　1801 年（享和元）
[T00012501B]



商い

教育

近代教育の導入により、女子も学べるようになりました。女子に学問は不要との考えも根強かったものの、教育を受けた女性のなかから自らの考えを自らの言葉で表現する女性も現れました。

「滅びゆく琉球女の手記」は、首里出身で県立第一高等女学校を卒業後、上京した久志芙沙子による短編小説です。出自を隠して生きる在京の沖縄県出身者を鋭くとらえた小説でしたが、発表後、沖縄学生会の一部から抗議の声があがり、釈明文が出される事態となりました。

「滅びゆく琉球女の手記」（『婦人公論 第 17 巻第 6 号 第 202 号』より）
1932 年（昭和 7）[T00013522B]

近代化を達成した日本は、海外進出をはかります。1894 年（明治 27）の「日清戦争」を皮切りに 1945 年（昭和 20）の敗戦まで戦争への道をつき進みました。

1940 年（昭和 15）に撮影された本部村女子警防団の写真からは、戦時下で出征や勤労動員などにより労働力が不足するなか、沖縄の女性たちも国家の戦時体制へ組み込まれていった様子がうかがえます。

本部村女子警防団　物見やぐら前にて
1940 年（昭和 15）隈崎俊武文書 [0000028541]

戦争への道

2 米国施政権下の女性と生活

戦争により働き盛りの男性人口が激減し、戦後沖縄では社会の復興に女性たちが大きな役割を担いました。

沖縄には夫を戦争で失った女性が多くいました。彼女たちは、失意と困窮のなか家族の生活を支えなければならない厳しい状況に直面しました。

米軍施政権下の沖縄には、広大な米軍基地が造られ、基地に依存した経済構造がつくられました。戦前から担ってきた商業や教育、看護、工芸などに従事する女性に加え、工場で働く女性やハウスメイド、基地内で働く女性も現れました。

再生タイヤを転がす沖縄タイヤ産業の女性従業員 1951 年（昭和 26）10 月 4 日
占領初期沖縄関係写真資料 陸軍 36 [07-01-4]

生活

団結

戦後まもなく、婦人会の組織化が進み、1948 年（昭和 23）には沖縄婦人連合会が結成されました。同会は、結成以来、生活改善や女性の社会的地位向上を目指しさまざまな活動を展開しました。

第 4 代・第 6 代会長をつとめた竹野光子は、同会を率いて講演会や署名運動など精力的に活動し、法的に女性を不利な立場に位置付けていた旧民法の改正にも尽力しました。

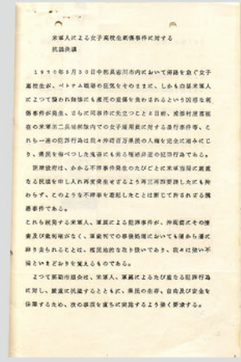
婦連会館落成祝賀式であいさつする竹野光子氏 1961 年（昭和 36）3 月 19 日
USCAR 広報局写真資料 060 [260CR-33_0294-01]

3 女性の人権尊重と地位向上を目指して

米国施政権下の沖縄では、米軍人・軍属による性暴力、女性労働者の劣悪な労働環境、女性の法的権利が制限された旧民法の存在など、女性の人権問題や社会的地位の向上に関する課題が多岐にわたっていました。

米軍人・軍属による沖縄の女性への性犯罪は、戦後も止むことはありませんでした。米軍人が下校中の女子高校生を性的暴行目的で襲い刺傷する事件が発生するなど、県民は日常的に危険にさらされており、事件が発生するたび、抗議の声を挙げました。

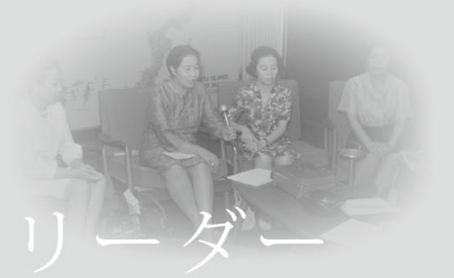
米軍人による女子高校生刺傷事件に対する抗議決議について
1970 年（昭和 45）[RDAE006811]



深堀りコーナー

展示室では深堀りしたいテーマの特設コーナーを設けています。

今回は、「A サインバー」「売春防止法の制定に向けて」「公衆衛生看護婦」「国民指導員」「沖縄女性と国際児」「沖縄県の取り組み」「文化の復興と女性」「USCAR 婦人クラブ 国際沖縄婦人クラブ」「『南嶋入墨考』関連資料」の 9 項目です。



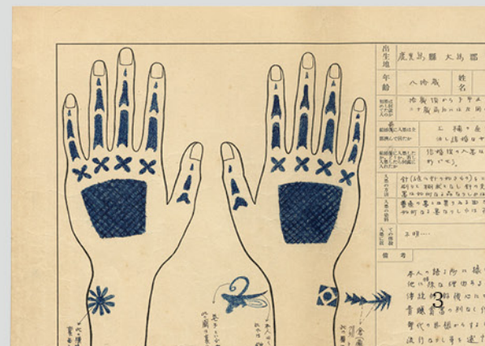
リーダー

沖縄統治を担った琉球列島米国民政府（USCAR）による「国民指導員計画」は、親米的な世論を醸成するための情宣活動の一環として実施された人事交流プログラムでした。派遣された約 400 人のうち女性は 27 例で、「公衆衛生」「家政」などの分野に限られたものの、米国で研修を受け見識を高める機会となりました。

琉球女性の国民指導員 1968 年（昭和 43）5 月 17 日
USCAR 広報局写真資料 071 [260CR-36_0427-03]

琉球王国時代、多くの琉球・奄美の女性たちが、手に入墨（ハジチ・針突）を施していました。1930 年（昭和 5）から 1932 年（昭和 7）にかけて、沖縄島や宮古諸島、八重山諸島、奄美諸島でハジチを入れた女性たちを調査した小原一夫氏は、その成果を卒業論文にまとめ、1962 年（昭和 37）に『南嶋入墨考』として刊行しました。

入墨習俗に関する調査票　『南嶋入墨考』関係資料



新規公開資料

2022 年（令和 4）12 月、神山長蔵氏が保管していた沖縄県発足式典および記念行事に関する資料を公開しました。

神山長蔵文書

①

②

③

1972 年（昭和 47）5 月 15 日の沖縄の日本復帰に際し、沖縄では新沖縄県発足式典をはじめとした様々な行事が実施されました。神山長蔵氏は、琉球政府総務局渉外広報部渉外課渉外係長として復帰記念事業を担当し、2008 年（平成 20）に『沖縄「復帰の日」新沖縄県発足式典・記念行事の記録 1972 年 5 月 15 日』を出版しています。

本資料群は神山氏が保管していた資料で、日本復帰記念式典事務局設置要綱、記念行事予算概算書、琉球政府の閉庁式や新沖縄県発足式典などを記録した音声資料、写真資料などが含まれます。音声資料に残された屋良朝苗知事の声も聞くことができます。

【写真】

① 胸花 登壇者用［0000218426］② 式典台本資料［0000136365］③新沖縄県発足式典 1972 年（昭和 47）5 月 15 日［0000226840］（音声記録 49 分 20 秒）

歴史手帖

第三回「下河辺メモ」

一九九六年（平成八）八月、米軍基地問題で対立していた沖縄県と国との関係を「和解」に導いた一編の「メモ」がしたためられました。

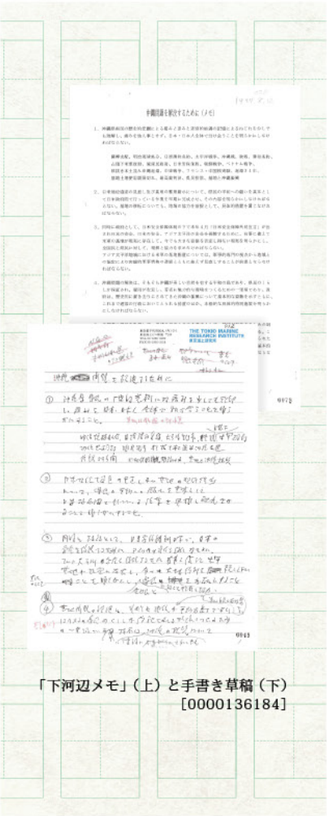
作者は、元国土庁事務次官の下河辺淳氏。同年三月、同郷の政治家、梶山静六内閣官房長官から「沖縄の問題が大変になってきた。沖縄問題について少し考えてほしい」と要請され、橋本龍太郎首相の「密使」として、旧知の大田昌秀知事との調整に乗り出すことになったのです。

一九九五年（平成七）九月、沖縄に駐留する米軍人らによる少女性暴力事件が発生し、長年うっ積していた県民の怒りが爆発します。県内の自治体で米軍への抗議決議が相次ぎ、十月には復帰後最大となる抗議集会が開かれました。大田知事はその後、米軍が沖縄の土地を継続使用するのに必要な「代理署名」を拒否。国は契約の空白による米軍基地の「不法占拠」状態を避けるため、同年十二月に大田知事を相手に署名に応じるよう訴訟を起こしました。下河辺氏が梶山長官から沖縄との調整を託されたのはそのような状況下でした。

「沖縄問題を解決するために」と題された「メモ」は三ページ、八項目にわたります。この「メモ」を提示された沖縄県と政府は基本的内容を受け入れることとし、橋本首相は九六年九月十日、「沖縄問題について」という総理大臣談話を発表。大田知事も同十三日、政府に代理署名の合意書を送り、両者が「和解」したのでした。

この「メモ」ができるまで下河辺氏と沖縄県は何度もやり取りをします。当館が所蔵する「下河辺文書」には、「メモ」の草稿や県とのやり取り、交渉日程などが含まれています。しかし、不思議なことに、沖縄県の公文書の中にはそのやり取りの記録が見つかっていません。

沖縄県の針路に重大な影響を与えた「下河辺メモ」は一体どこにあるのか。県庁のどこかにひっそり眠っているのか。真相はまだ謎に包まれたままです。



「下河辺メモ」（上）と手書き草稿（下）［0000136184］

シマめぐり沖縄 No.18 久米島町

久米島は、沖縄本島から西に約 100km に位置する、人口 7,416 人の島です（2023 年 1 月末時点）。2002 年（平成 14）、具志川村と仲里村が合併し久米島町となりました。

久米島では戦前より沖縄角力が盛んで、多いときは年間 12 場所あり、多くの力士を輩出しました。写真は、1973 年（昭和 48）に開催された沖縄角力大会の様子です。

久米島全沖縄角力大会
1973 年（昭和 48）10 月 9 日［071191］

沖縄観測史上最低気温

異常気象報告 1963 年 No.01 1963 年 1月の異常寒波 昭和 38 年 01 月豪雪［G80000279B］

1963 年（昭和 38）1 月 20 日、久米島で 2.9 度の沖縄観測史上最低気温が観測されました。

琉球気象台がまとめた異常気象報告によると、この異常低温は、中国側で発生した低気圧が日本海で発達し、北よりの季節風にのって南西諸島に流れ込んだ寒波が原因でした。

その冷え込みは多くの農作物などに影響を与え、特に甘藷は、前年 11 月以後に植え付けた分が全滅状態になり、被害額は 29 万ドルにのぼると予想されました。前年度から続く干害の影響もあり、島民は米国によるリバック物資の援助に頼らざるを得ませんでした。

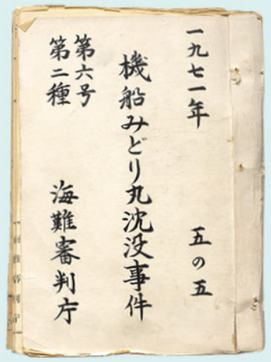
トラコーマ撲滅作戦

SAFASIA によるトラコーマ罹患調査［17-59-3］

久米島をはじめ沖縄全域で流行していた眼病であるトラコーマは、人やハエとの接触で感染し、放置すれば失明に至る深刻な病気でした。

米陸軍アジア特別活動隊（SAFASIA）は琉球政府の協力を得て、1965 年（昭和 40）3 月から事前調査をはじめ、4 月には久米島に来島、島民に罹患検査を受けるよう呼びかけました。約 1 万人が検査を受け、およそ 2,000 人がトラコーマに罹患していることがわかりました。調査チームは患者に軟膏を配布するなど、医療処置を施しました。この活動は「トラコーマ撲滅作戦」として全琉で行われました。

みどり丸沈没



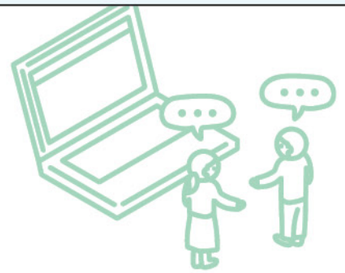
機船みどり丸沈没事件 1971 年 5 の 5［0000106158］

1963 年（昭和 38）8 月 17 日午後 0 時 3 分ごろ、神山島付近で、那覇の泊港から久米島に向け出港した定期貨客船みどり丸が沈没し、乗員乗客 228 人中、死者 86 人、行方不明者 26 人を出す大惨事となりました。高波、強風の悪天候の中、午前 11 時 58 分ごろ船体左側にひときわ大きな波が打ち寄せ、船体は右へ大きく傾き、甲板にいた旅客や手荷物などが右側へ移動、大量の海水が客室や機関室へ流れ込みました。つぎつぎと波が押し寄せるなか、旅客の大部分は海中に投げ出され、乗組員が SOS を発信するいとまもなく、船は沈没しました。

海難審判法に基づき行政審判を行う海難審判庁（現・海難審判所）は、この事故について、多数の旅客を甲板に載せたうえ貨物を過載して船体を不安定な状態としたこと、積載貨物の固縛不十分のまま出港したこと、悪い天候のためすみやかに引き返すべきであったことなどを指摘し、これを怠った職務上の過失による事故と裁決しました。

みどり丸に関する海難審判は、事故から 8 年経った 1971 年（昭和 46）12 月 24 日に閉廷しました。

シリーズ
記録をつくる 記録をのこす

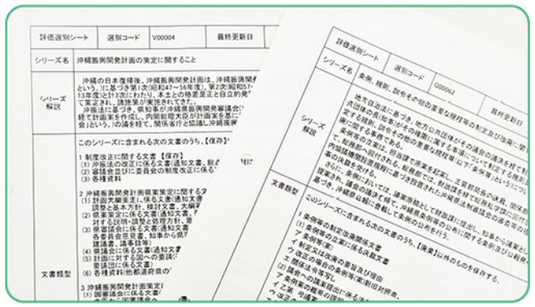


第 4 回「説明責任」

「説明責任」という言葉は、現代社会では様々な場面で使われますが、当館で行っている「評価選別」でもその考え方は重要です。大量の公文書の中から後世に残すべきものと廃棄するものとに選別する業務だからこそ、説明責任が要求されるともいえます。

沖縄県公文書館における公文書の評価選別は、県の事務事業ごとに業務分析を行った上で作成した「評価選別シート」に基づいて、残すものと廃棄するものを分けていく方法 (「シリーズ別選別」と呼ばれます) を採っています。この「評価選別シート」は、県の事務事業の概要や評価選別の際に留意する点等も記述し、これが選別の手引きとなります。最大のメリットとしては、「評価選別シート」という〈評価選別の根拠〉に基づいて業務の説明責任が果たせるということが挙げられます。

今後、公文書管理条例などの制定に伴い、評価選別は別の方法に移行していくこともあるかもしれませんが、いかなる方法であろうとも、「現在及び将来の県民への説明責任」を果たすものでなければ現代の評価選別にふさわしい方法とはいえないでしょう。



「評価選別シート」の例。県の事務事業の業務分析を基に文書等を類型化し、保存・廃棄を示している。

「評価選別」という業務には、沖縄の歴史を跡付けるものとして何を残し、何を残さなかったのかという、「将来の県民への説明」という大きな責任が伴うと考えています。

アーキビスト 専門員エッセイ

NO.4
麻生 清香
（公財）沖縄県文化振興会
公文書専門員 整理公開担当

資料と人々をつなぐ

歴史学を専攻した私にとって、歴史資料はその時代を知るための鍵だった。研究テーマに関する資料を集めるために、さまざまな文献を手繰り資料目録を検索して資料をめくる。空振りも多かったが、求めていた一文を見つけたときの高揚感や論点を深く考察するきっかけになる資料との出会いはいまでも鮮明に覚えている。

また、アーカイブズの世界に入って痛感したのは、資料は残す努力をしないと残らないということ。そして資料は利用されてこそ重要性が増すのだということ。当然だが、アーカイブズの営みがなければ、資料は散逸したり破損したりして永く保存し利用に供すことはできない。公文書は「民主主義の根幹を支える国民共有の知的財産」とされるが、歴史研究だけでなく、人々の権利を守ったり、新しい事業の参考になったりと実に多様な場面で活用されている。公文書館はこれらの資料を大切に保存し、いつでも誰でも利用できることを担保する社会基盤なのだ。閲覧室や展示室で資料を求める人々とお話しするたびに、そのことを実感している。

私はいま、整理公開業務を担当し、利用しやすい目録を作ろうと日々資料と向き合っている。資料目録は利用者と資料をつなぐ大事なツールである。沖縄県公文書館には、沖縄県の公文書である沖縄県文書や琉球政府文書、個人や団体が保管していた沖縄に関する歴史資料やアメリカから収集した文書が所蔵されており、2023 年（令和 5）2 月現在で約 35 万点の資料が公開されている。この膨大な資料のなかから求める 1 点を探しやすくするために資料目録がある。閲覧室で利用者の方と話をすると、ひとりひとり必要な資料が異なり、それぞれ懸命に資料を探していることが分かる。資料を探すとき、使いやすい目録が整備されていればそれだけ資料を探しやすくなる。これからも、資料との出会いを求める人々の助けとなれるよう、自分が資料から感じた高揚感を胸にとめつつ、利用しやすい環境をつくれるよう研鑽につとめたい。

活発な意見交換を行う参加者

フラッシュニュース
公文書管理講座を開催！

2022 年（令和 4）11 月 18 日、県内自治体の文書管理担当の皆さんを対象とした「公文書管理講座」を開催し、北は伊是名村、南は多良間村までの 15 団体 21 名の方にご参加いただきました。

これまでの講座では主に博物館や自治体史編さん部門など、いわゆる〈類縁機関〉の職員を対象にしてきましたが、「歴史公文書の管理は作成・収受の段階から始まる」とも言われることから、今回は各自治体の総務部門の皆さんを対象としました。

プログラムでは、館内見学ツアー、県内自治体の文書管理システム導入状況、文書管理の課題の共有、そして先進事例紹介として北谷町と読谷村の総務課職員に取り組みを報告していただきました。その後、参加者同士の活発な意見交換が行われました。

今回の講座内容は、私よりもっと上の役職の人たちが聞くべきだと感じるほど、今後の役所のシステム改革に関わる重要な話を聞くことができた。

意見交換や情報共有のため、年 1 回程度あると嬉しいです。システム導入や電子化をこれから進めていく中でこのような場があるととても助かります。

今回の受講を通して、業務に対するモチベーションが高まりました。市町村職員にとって公文書管理業務の問題解決につながる貴重な講座だと思います。

今後も公文書管理条例の制定や歴史公文書の評価選別方法など、担当者同士が各団体の枠を超えて情報交換できるネットワーク作りを進めていきたいと思います。

沖縄県公文書館連続歴史講座 2022 ～今、基地･経済･文化を考える～
「日本復帰と沖縄」アーカイブ動画配信中

アーカイブ動画リスト

維持された米軍基地	野添文彬	沖縄国際大学法学部准教授
沖縄振興と経済	前泊博盛	沖縄国際大学経済学部教授
くりかえす沖縄ブーム	新城和博	ボーダーインク編集者
戦後社会と家族の変容	宮城晴美	元那覇市歴史博物館主幹

2022 年（令和 4）に沖縄県教育委員会との共催で開催した歴史講座「日本復帰と沖縄～今、基地・経済・文化を考える～」をアーカイブ配信しました。本講座は、『沖縄県史・現代編』の執筆者の先生方をお招きして、基地、経済、文化、家族など、さまざまな角度から復帰 50 年、そして戦後 77 年の沖縄のあゆみを考える内容となりました。講座に参加できなかった方や、もう一度見直したい方など多くの方の視聴をお待ちしております。

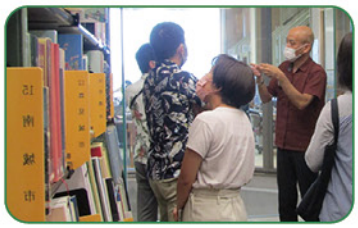
公式HPから過去の講演講座を見る

お知らせ

公文書館を職員の解説つきで見学してみませんか？

沖縄県公文書館では、団体見学を受付けています。当館職員による所蔵資料展の解説や映像上映、施設見学などご要望に合わせてご案内いたします。

沖縄にとって「記録」の持つ意味、公文書館の社会的役割、図書館や博物館との違いなど、資料管理のプロが分かりやすく解説します。



こちらから
チェック！

沖縄県公文書館公式 HP にて
見学の詳細やおすすめの資料
をご覧いただけます。

自治会、老人会、婦人会、子ども会、サークルなど多くの皆さまのご来館をお待ちしております！

利用案内

時間	午前9時～午後5時
休館日	月曜、国民の祝日、年末年始（12月29日～1月3日）、6月23日（慰霊の日）
利用について	・入館は無料です。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、**閲覧室の利用は事前予約制**です。 詳細は当館ホームページをご覧ください。　予約TEL：098－888－3871 ・展示室は予約不要です。 ・書庫内資料の閲覧には「利用証」が必要です。「利用証」発行には、 住所が確認できる身分証明書をお持ちください。
交通案内	那覇バス　1、2、3、4、5、14、15、16番　「新川営業所」下車徒歩3分 東陽バス　191番「県立南部医療センター前」下車徒歩10分 高速バス　111、117番「県立医療センター前」下車徒歩10分 駐車スペースに限りがありますので、出来るだけ公共交通機関をご利用ください。

ホームページ	https://www.archives.pref.okinawa.jp/	Facebook	沖縄県公文書館　@OkinawaPrefecturalArchivesfb

来館前に、体温測定　マスクの着用　人とはなれる　手洗い　のご協力をお願いします。

沖縄県公文書館だより ARCHIVES アーカイブズ 第64号　発行日：2023年2月14日
編集発行：沖縄県公文書館指定管理者（公財）沖縄県文化振興会　公文書管理課
〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川148-3　電話:098-888-3875（代表）　098-888-3871（閲覧室直通）　FAX:098-888-3879
資料に関するお問い合わせはこちらまで！